瀧の不動尊は、泰澄大師の作にて靈驗あり。今は瀧村の氏神と成り、社有。』といふものは、名に因つて說を爲したものであらう。明治中に至り、野村を併合した。

タキアンジツ　瀧菴室　三宮古記に『瀧菴室燈油云々』と記されてゐる。石川郡白山(部落名)なる歌古瀧附近に瀧宮があるから、この菴室も亦その地にあつたのであらう。

タキイシ　瀧石　羽咋郡瀧の海岸に散布する石塊で、庭園用として賞翫せられる。寶曆の書上に、『瀧村領瀧石、先年より留石之申。今以相守申。』能登名跡志に、『瀧石とて、眞石の水晶の帶有。石礎などによき名石也。』とある。

タキガハ　瀧川　白山尾添口登路の御花畠が原の北に發し、岨清水の山脚に隨ひ、緩流すること四粁許にして百四丈瀧となる。卽ち丸石谷川の上流である。

タキガハアリハル　瀧川有久　字は子龍、新平と稱し、規矩亭又は崇山と號した。天明七年に生まれ、父有中は藩の定番御步であつた。有久若くして算法を宮井安泰に學び、途に百家の遺書を探つて研鑽至らざる所なく、自ら稱して規矩流又は瀧川流といひ、その門下甚だ多く、人呼んで犀川算聖といふに至つた。文政二年父に繼いで祿を受け、藩の算用者となり、諸職に歷任し、弘化元年九月十三日暴かに病んで歿した。享年五十八。その著す所倍率術・算法要法五ヶ條・算法探索諺解・神鑒算法別術等甚だ多かつたが、就中未詳算法十八編は、最も浩瀚なもので、平面幾何・立體幾何から微積分の一部を含むものである。有久に六男五女あつたが、長子秀藏友直は御算用者となり、次子某正直は三好實能の義子となつたが早く歿し、三子善藏質直その後を受け、皆師範家と稱せられた。

タキガハサモン　瀧川左門　江沼志稿に、瀧川左門は能登侍從前田利政に仕へて六百石を受けたが、利政の京師に隱遁の後江沼郡額見村に住み、大坂夏陣の時には、前田利常に從うてその先手を勤め、五月七日戰死し、實子なくして家斷絕した。然るに翌元和二年小幡駿河・横山山城等同村檢地の際、左門の老母がこゝにあるを知り、その戰功を嘉賞して居屋敷三百步の租を免じたとある。但し加賀志徵には、金澤寶圓寺の大坂戰役陣亡者の位牌中に、瀧川左門の名がないことを指摘して居る。

タキガハトモナホ　瀧川友直　通稱秀藏、字は子益。有久の長子。文化十三年出生。御算用場の吏となり、父の後を繼ぎて規矩亭二代と稱し、門生を集めて算學を敎授した。文久二年四十七歲を以て歿。息吉之丞永賴幼なるを以て、三好質直代りて師範を勤めた。

タキガハラ　瀧ヶ原　江沼郡那谷谷に屬する部落。江沼志稿に、瀧ヶ原は東口・圓句・牧・市谷・三ッ谷・追分・下の七部落の惣稱であるとし、村名は瀧があるによるというてゐる。追分は今廢して存せぬ。

タキガハライシ　瀧ヶ原石　江沼郡瀧ヶ原に產する石材。石英粗面岩質凝灰岩で、灰白色石基中に綠泥石樣の礫を混ずる蛙目とし、質は硬い。

タキガハラジョウ　瀧ヶ原城　江沼郡瀧ヶ原に在つて、地方人は之を霧こめの城といふ。青木紀伊守が居たと傳へるが、若し越前の青木一矩のことならば誤謬である。

タキガハラダキ　瀧ヶ原瀧　江沼郡瀧ヶ原の內下村にある。江沼志稿に、谷川を源とするもので高さ一丈許り。この瀧あるが故の邑名であらうとある。

タキガハリユウサンガク　瀧川流算學　瀧川有久の開く所。有久はもと三池流宮井安泰から學を傳へたが、自家の研鑽によつて遂に一派を初めるに至つたものである。有久の長子友直・三子質直之を習ひ、而して友直と質直とは之を關口開に傳へた。

タキギグラ　薪藏　延寶の金澤圖に、殿町の內津田權佐邸の向かうに御薪藏とある。蓋し藩初には城內薪ノ丸に薪炭を貯藏したが、その後こゝに轉じたものと見える。殿町薪藏の遺地は前田式部の邸となつたが、その式部に賜はつた時代は明らかでない。

タキギノマル　薪ノ丸　金澤城本丸附段と玉泉院丸との間の曲輪で、その地甚だ低い。有澤武貞の金澤細見圖譜に、昔前田利常の室天德院夫人が本丸に居た時、その用に供する薪炭を貯へた所であるといひ、越登賀三州志の來因槪覽附錄に載せる說も之と同じい。

タキギノマルドゾウ　薪ノ丸土藏　金澤城內に薪ノ丸御土藏と稱するもの三庫あつて、藩侯の重器・重寶を納めてあつたが、廢藩後凡べて賣却せられた。

タキコウ　瀧港　羽咋郡一ノ宮村に在つて、北方瀧崎に限られ、西南に向かうて開敞する。水深は少いが、海底暗礁なく、船舶の出入容易であつた。この附近は裏日本稀有の豐漁區であるが、避難港を有しない爲、漁撈に從事すること困難なるのみならず、風浪に遭ふときは難破の害を見ることが屢であつた。依つて大正九年十一月から漁港の工事を起し、昭和五年十月に一たび竣成した。

タキザカ　瀧坂　鳳至郡仁行から市ノ瀨の部落に至る間の坂路。

タキザキ　瀧崎　羽咋郡瀧の岬。或は瀧の西浦ともいふ。その沖で捕へる鯛を瀧鯛といひ、美味を以て賞翫せられる。

タキザハキンエモン　瀧澤金右衞門　→オホニシキンエモン　大西金右衞門。

タキシ　田岸　鹿島郡熊木院に屬する部落。久麻加夫都阿良加志比古神社藏貞應三年の立券狀に、『多氣志一宇・久吉一宇・小在家國末』とある多氣志は、後にいふ田岸であらう。

タキジョウ　瀧城　江沼郡四十九院に在つた。加賀古跡考に、四十九院村(瀧村の南山)に在ると記される。

タキジリ　瀧尻　鹿島郡熊淵のうちの小字。

タキダニ　瀧谷　羽咋郡甘田保に屬する部落。能登名跡志に、『瀧谷村は一村殘らず法華宗にて、則妙成寺の寺領なり。芝垣村より十町餘り山手へ入込なり。』とある。因に貞和五年四月廿八日平正賴判書に、『避渡志良田村田坪付事一所四十五束苅瀧谷口』とあるを、この瀧谷の初見であるとするものがあるが、それは地理を失する。

タキダニ　瀧谷　鳳至郡別壯嶽と高塚山との間に在る谷。

タキダニカハ　瀧谷川　羽咋郡上中山に源を發し、傳師川を合はせて瀧谷を過ぎ、柴垣の北部から海に注ぐ。流程四粁許。

タキダニジ　瀧谷寺　羽咋郡妙成寺の一名。妙成寺藏慶長六年五月・同十六年十二月掟書・